

あたらしくはいった本 (令和2年3月 貸出開始資料から)

- 小説 海の十字架(安部龍太郎/著) 茶聖(伊東潤/著) 去年の雪(江國香織/著) うちの父が運転をやめません(垣谷美雨/著) 今日も町の隅で(小野寺史宜/著) 三年長屋(梶よう子/著) わかれ縁(西條奈加/著) 絶対聖域(新堂冬樹/著) 丸の内魔法少女ミラクリーナ(村田沙耶香/著) 白い悪魔(ドメニック・スタンスベリー/著)
- 随筆・詩などの文学 晴れの日散歩(角田光代/著) 50代、足していいもの、引いていいもの(岸本葉子/著) 道子の草文(石牟礼道子/著) 綴る女(林真理子/著) 生きるための辞書(北方謙三/著)
- その他の本 きらいな母を看取れますか? 関係がわるい母娘の最終章(寺田和代/著) もっと美しき小さな雑草の花図鑑(大作晃一/写真 多田多恵子/文) 野菜作り達人のスゴ技100(加藤正明/著) 疲れないからだになる鉄分ごはん(ワタナベマキ/著) ビジュアルパンデミック・マップ(サンドラ・ヘンペル/著) 賃上げ立国論(山田久/著) 飲んでる薬、多すぎませんか?(秋下雅弘/著)

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



『わかれ縁』
西條奈加 著
文藝春秋



『晴れの日散歩』
角田光代 著
オレンジページ



『野菜作り達人のスゴ技100』
加藤正明 著
NHK出版

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日から当面の間、臨時休館しています。開館については、決まり次第ホームページでお知らせします。大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

清浦奎吾と吉岡拝山

清浦奎吾(1850-1942)は、熊本県山鹿市鹿本町にある明照寺に生まれます。明治に入って司法省に出仕、元老山県有朋の側近として頭角を表し、貴族院議員を経て大臣を歴任、大正13(1924)年、ついには内閣総理大臣にまで上り詰めました。

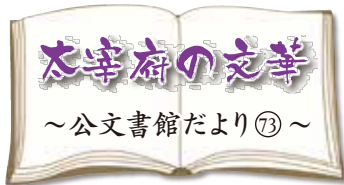
一方の吉岡拝山(1846-1915)は、町絵師吉岡梅仙の長男として太宰府に生まれます。京都の画家中西耕石に弟子入りするも、役人の道を志し大蔵省や太政官に奉職しました。しかし、明治4(1871)年、暴風雨により倒壊した家屋の下敷きとなり右手を切断、出世を諦め、あらためて画業に従事しました。

一見関係性が見えないこの二人は、実は幕末期、お互いがまだ青年の時代に、豊後日田の私塾咸宜園で学んだ同窓生でした。

二人は、拝山は按摩、清浦は托鉢をして日銭をかせぎ学資に充てる苦学生であった点も同じでした。清浦が食べ残しておいた粟米を、夜遅く按摩から帰ってひもじさに我慢できなくなった拝山がこっそり食べてしまったという出来事を拝山は晩年述懐し

ています。

拝山は後年南画家として世間に名を馳せます。南画とは中国の南宗画に由来し、江戸時代中期以降日本で発展した画派で、「詩書画一致」といって、画中に記される漢詩とふさわしい書体、さらに詩の世界を表現した絵という、これらすべてが調和した総合芸術です。



後に、清浦は拝山生前の漢詩を集めた遺詠集に序文を寄せています。その中に「余かつて同じく南豊の咸宜園に学ぶ。往事を追想すれば、すなわち茫として夢のごとし。」(『古香書屋詩存』巻一)と記しており、清浦もまた拝山らと咸宜園で過ごした日々のことを懐かしく感じていたことが分かります。

吉岡家に今も遺る資料の中に、明治35(1902)年11月、熊本県で行われた陸軍大演習のために、清浦が帰郷した際、拝山から菓子と手紙を受け取り、そのお礼として清浦が送った微墨(中国安徽省産の墨)1函に添えられた手紙が含まれます。生前の二人の確かな交流の証として、大変貴重な資料です。

公文書館 朱雀 信城